



メリットを比較して最適なシステムを導入

【チェックリスト付き】

動態管理システムの選び方

Cariot 

- ① **動態管理システムを導入するメリット** p.03
- ② **動態管理システムを選ぶポイント** p.04
- ③ **動態管理システム導入を判断するためのチェックリスト** p.05
- ④ **動態管理システムのサービス比較** p.06
- ⑤ **導入目的別の動態管理システムの選び方** p.8
 - 到着予想時刻や遅延の情報を自動的に通知したい
 - ドライバーの業務状況を可視化し、労働環境の改善を図りたい
 - 配送ルートを計画し、予実差をリアルタイムに把握したい
 - 車両の稼働実績を可視化し、保有している車両台数を最適化したい
 - 走行データを計測して運転指導を行い、事故発生リスクを低減したい
- ⑥ **Cariotの優れた点・特徴** p.10
 - 課題に応じて、部署ごと、担当者ごとに異なるデータ/レポートを確認したい
 - 導入後もしっかりとしたサポート体制で、活用を支援して欲しい
 - 【導入目的別】動態管理システムの比較

動態管理システムを導入するメリット

動態管理システムにはさまざまなものがありますが、以下6点の導入メリットが考えられます。

車両やドライバーの正確な稼働状況を客観的なデータに基づいて把握できる

動態管理システムの導入によって、車両の現在位置や勤務・運転状況をリアルタイムで取得できるようになります。結果として、現場担当者への適切な指示や正確な稼働状況の把握が可能です。

配送指示を効率化できる

動態管理システムの導入によって、管理者は車両位置をリアルタイムで確認できるため、ドライバーの帰社時間を把握した上での次の業務指示や、急な集荷依頼などに対しても適切で効率的な配送指示が実現できます。

過去の走行ルートから最適な走行ルートを検討できる

動態管理システムは、過去の走行ルートを蓄積することができるため、より良い走行ルートの割り出しに役立てることができます。「Cariot」でも、過去の走行ルートをGoogleマップ上で確認できるので、それを基に、より効率的なルートの検討が可能です。

業務の生産性を高めて無駄なコストをカットできる

動態管理システムの導入によって、配送業務や車を使った訪問/営業活動等における非効率なポイントの発見が容易になります。非効率な点に対処することで、よりスムーズな業務を実現するとともに、無駄なガソリン代、リース費用などのコストカットも期待できます。

事故を未然に防ぐことができる

動態管理システムは、デバイスとの通信により運転状況の見える化を実現します。速度超過や急加速・急減速を検知できる機能を生かし、管理者はドライバーに、より適切な安全運転の指導を迅速に行うことができます。

ドライバーが作成する運転日報の手間を省略できる

動態管理システムによっては、運転日報の作成が自動化できるものがあります。デバイスから取得したデータを基にしているため、手書きと比較して正確性が高く、日報作成におけるドライバーの負担軽減も期待できます。

動態管理システムを選ぶポイント

動態管理システムは、GPSの活用により車両・ドライバーの位置情報をリアルタイムに把握・管理・記録する仕組みです。

動態管理システムの導入目的は、以下の2点に大別できます。

- 輸配送業務を効率化する
- 訪問/営業活動を効率化する

動態管理システムを導入する場合は、自社にとって最適なサービスを選ぶことが重要です。

つまり「自社の抱える課題解決へとつながるサービス」を選ぶことがポイントとなります。

価格の安さ(導入コストの安さ)だけで選ぶと、期待するメリットが享受できないリスクがあるので注意が必要です。



動態管理システム導入を判断するためのチェックリスト

自社がどのようなソリューションを求めているかを明確にすることは、動態管理システムを選ぶ上でとても重要です。
まずは以下のチェックリストに当てはまるものがあるか確認してみましょう。

<導入判断用チェックリスト>

- 到着予想時刻や遅延の情報を自動的に通知したい
- ドライバーの業務実態を可視化し、労働環境の改善を図りたい
- 配送ルートを計画し、予実差をリアルタイムに把握したい
- 車両の稼働実績を可視化し、無駄な走行ルートの重複を発見したい
- 過去の走行ルートを可視化し、最適なルートの設計をしたい
- 走行データを計測して安全運転指導を行い、事故発生リスクを低減したい

ひとつでも当てはまる場合、動態管理システムの導入による業務の効率化が期待できます。

また、チェックリストに当てはまる項目が多いほど、早急な導入を検討すべきだと言えるでしょう。

ただし、動態管理システムの導入にあたっては業務体制や環境の大きな変化を伴うことが予測されます。

よりスムーズな導入を実現させるためにも、事前に関係部署を集めたミーティングを行い、導入への理解を深めるなどの配慮が必要です。

4

動態管理システムのサービス比較

現在、複数の企業が動態管理システムサービスを提供しています。
それぞれに特徴やメリットがあるため、自社にとって最も導入メリットがあるサービスを選びましょう。
以下、各社の動態管理システムについて、主なサービス内容を比較します。

	Cariot	Aシステム	Bシステム	Cシステム	Dシステム	Eシステム
無料サービス	○	○	○ (無料トライアル2週間)	○	× (無料デモ体験あり)	○ (無料トライアル2週間)
導入費用/月額費用	0円/契約台数とアカウント数に応じた月額費用 ※車載デバイス設置に工事を伴う場合は購入費など	問い合わせ	5万円/月額1,780円(1台)～ など(問い合わせ)	初期導入費用(初期登録料+対応車載端末購入費用)+月額サービス利用料980円(1台)～	問い合わせ	0円/月額1,200円(1ユーザー) ※100ユーザー以上は問い合わせ
最低利用人数(台数)	5台	1台	問い合わせ	1台	問い合わせ	1ユーザー
デバイスタイプ (利用方法)	・シガーソケット ・ドライブレコーダー ・スマートフォン	・スマートフォン ・タブレット	・OBD給電 ・シガー給電 ・結線型 ・通信型ドライブレコーダー	・ドライブレコーダー ・カーナビ ・テレマティクス端末、データロガー端末 ・スマートフォン ・タブレット	・シガーソケット ・ドライブレコーダー	・スマートフォン
車両の一覧表示	○	○	○	○	○	○
メッセージ機能	○	○	問い合わせ	○	問い合わせ	○
危険運転通知	○	○	○ (ドライブレコーダーのみ)	○	× (安全運転診断あり)	×
自動日報作成機能	○	○	○	○	○	○

動態管理システムのサービス比較

比較してみると「車両の一覧表示」、「自動日報作成機能」は、各サービスに共通して提供されていることが多いとわかります。

一方「デバイスタイプ(利用方法)」には、シガーソケット・ドライブレコーダーなどの車載デバイスが用意されているタイプと、スマートフォンやタブレットを利用するタイプに分かれていることに注意が必要です。

特にスマートフォン・タブレットを利用するサービスでは、別途通信料のコストがかかることも考慮する必要があります。

また「無料サービス」、「メッセージ機能」、「危険運転通知」についても、各サービスによって有無が分かれるので事前にチェックしてください。



導入目的別の動態管理システムの選び方

動態管理システムの導入目的は「輸配送業務」、「訪問/営業活動」の効率化です。

ここでは最適な動態管理システムを選ぶために、導入目的をさらに細分化してご紹介します。

以下5つの目的から優先順位の高いものを選び、機能が充実した動態管理システムの導入を検討しましょう。

- 到着予想時刻や遅延の情報を自動的に通知したい
- ドライバーの勤務実態を可視化し、労働環境の改善を図りたい
- 配送ルートを計画し、予実差をリアルタイムに把握したい
- 車両の稼働実績を可視化し、保有している車両台数を最適化したい
- 走行データを計測して安全運転指導を行い、事故発生リスクを低減したい

5-1.到着予想時刻や遅延の情報を自動的に通知したい

到着予想時刻や遅延情報の自動通知は、管理者の業務負担を軽減するとともに、連絡漏れのリスク対策としても役立ちます。

輸配送業務の万全な管理を目指すうえで欠かせない機能です。

5-2.ドライバーの勤務実態を可視化し、労働環境の改善を図りたい

動態管理システムは、走行ルート・時間・距離を自動集計し、ドライバーの勤務実態を可視化することが可能です。これらのデータをもとに運転日報や月報を自動作成することができるものも多く存在します。

ドライバーの業務負担の軽減を目指し、労働環境の改善を図りたい場合には、特に重視したい機能です。

導入目的別の動態管理システムの選び方

5-3. 配送ルートを計画し、予実差をリアルタイムに把握したい

効率的な配送ルートのプランニングのためには、走行ルートを可視化できる動態管理システムを選ぶと良いでしょう。

計画と実際の走行にどれくらい差があるのかリアルタイムに把握できれば、配送先に影響がないように調整することも可能になります。遅延などの問題が発生する前に対処すれば、クレームを減らすことにも繋がります。

5-4. 車両の稼働状況を可視化し、保有している車両台数を最適化したい

保有している車両台数を最適化するには、オンライン上での車両利用予約機能があると非常に便利です。

限られた車両を複数のドライバーでスムーズに利用することが可能となるので、各車両の稼働パフォーマンス向上が期待できます。

5-5. 走行データを計測して安全運転指導を行い、事故発生リスクを低減したい

事故発生リスクの低減を目指す場合には、ドライバーの安全運転強化に関する機能がついたサービスを選びましょう。

急加速・急ブレーキ検知のほか、危険運転に対するメールアラート機能がついていればリアルタイムでドライバーに注意喚起をすることも可能です。

Cariotの優れた点・特徴

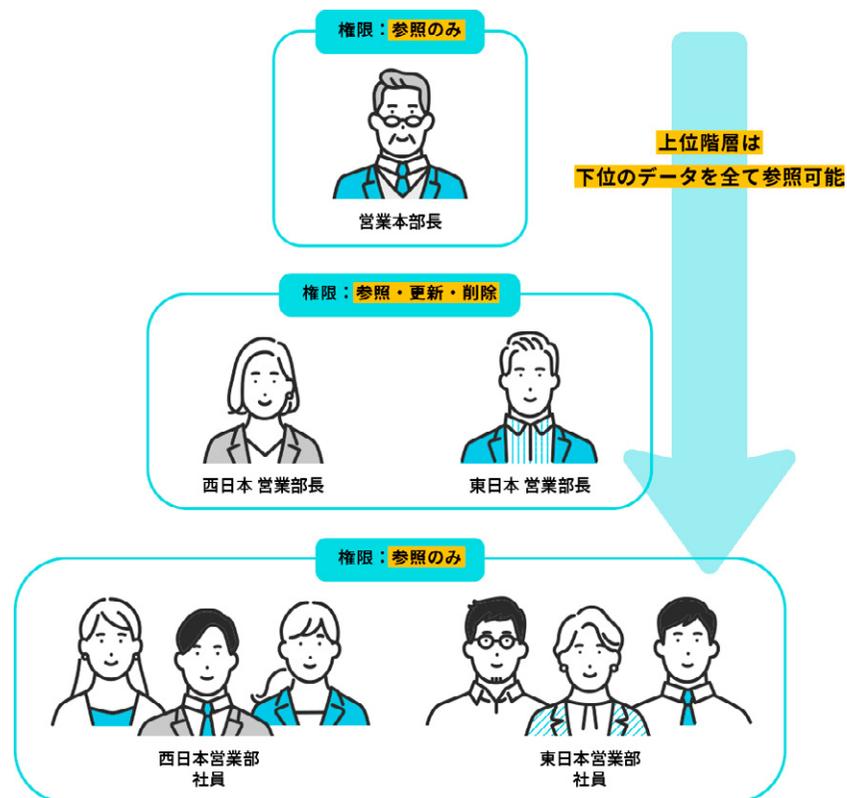
前項5つの目的に加えて、他社と比べても「Cariot」が優れている項目を2点ご紹介します。

6-1.課題に応じて、部署ごと、担当者ごとに異なるデータ/レポートを確認したい

データ・レポートの柔軟で詳細な作成機能は、課題の見える化に繋がります。「Cariot」では、目的に応じたレポート作成が可能です。車両のみならず利用者や部署別などのカテゴリーを分けてレポートを作成することができます。また、データの視覚的な把握が可能となるダッシュボードも大きな特徴です。車両ごとだけでなく拠点ごとのデータも表示可能であり、車両の稼働率、それぞれの日時における車両の状況などをグラフィカルなデータによって一目で確認できます。



さらに、本社・支社ごと、部署や役職ごとに、データの閲覧、編集、削除の権限を細かく設定ができ、情報セキュリティのレベルを向上させることもできます。





Cariotの優れた点・特徴

6-2.導入後もしっかりとサポート体制で、活用を支援して欲しい

動態管理システムは、その円滑な運用のために、万全なサポート体制が不可欠と言えます。

何故なら、動態管理システムの導入は、課題解決のための手段だからです。

「Cariot」では、専門のチームが導入後もサポートをさせていただきます。企業ごとに担当者がつきますので、わからないことがあっても、安心してご利用いただけます。

【初期導入の無償サポート】

- マニュアルの配布
- 課題・指標設定、利用方法アドバイス（電話・メール・Web会議）
- デバイスの初期設定

カスタマイズ対応などの有償サポートもあります。

まずは担当者へお気軽にご相談ください。個別のお見積りをさしあげます。



Cariotの優れた点・特徴

6-3. 【導入目的別】動態管理システムの比較

動態管理システムの導入が、企業のソリューションへと繋がるように、最適なサービスを選ぶことが最も肝心です。動態管理システムにはそれぞれ特徴があり、提供されている機能もそれぞれに異なりますので注意してください。導入後のしっかりとした活用が期待できるよう、最後に、それぞれの動態管理システムのサービス内容を導入目的別に比較します。

導入目的 ※	Cariot	Aシステム	Bシステム	Cシステム	Dシステム	Eシステム
1	○	○	○	○	×	○
2	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	×
4	○	○	○	○	○	○
5	○	○	△	○	○	×
6	○	×	×	×	×	×
7	○	○	△	×	△	△

※導入目的

1. 到着予想時刻や遅延の情報を自動的に通知したい
2. ドライバーの勤務実態を可視化し、労働環境の改善を図りたい
3. 配送ルートを計画し、予実差をリアルタイムに把握したい
4. 車両の稼働実績を可視化し、保有している車両台数を最適化したい
5. 走行データを計測して安全運転指導を行い、事故発生リスクを低減したい
6. 課題に応じて、部署ごと、担当者ごとに異なるデータ/レポートを確認したい
7. 導入後もしっかりとしたサポート体制で、活用を支援して欲しい



メリットを比較して最適なシステムを導入
【チェックリスト付き】
動態管理システムの選び方

お問い合わせ先

株式会社フレクト Cariot事業部

Web: <https://www.cariot.jp/>

Mail: cariot_marketing@flect.co.jp

TEL: 03-3561-9610 (平日10:00 ~ 18:00)

Cariot 



cariot.jp

※本資料の情報、及び画像は、作成時点のものです。詳しくは最新の情報をご確認ください。
※各社事例の情報は、ヒアリング時のものになります。また、数値評価は企業努力も含まれます。

